

プラント・オパール分析

(1)処理方法

分析処理の手順は、藤原（1976）のガラスビーズ法にしたがう。

分析試料

分析に供する試料は1 g程度とする。

分析処理

分析処理の手順を下記のフロ - チャート（渡辺,2009）に示す。

(2)顕微鏡による同定・計数

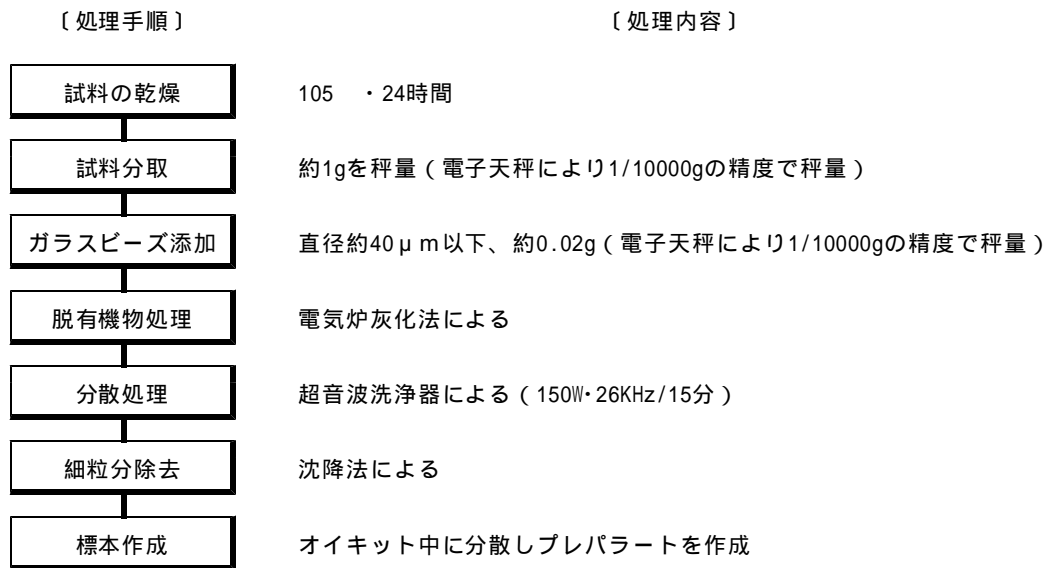
イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体（プラント・オパール）を対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で検定・計数を行う。稲作の確認を目的とすることから、同定はイネほか数分類群に止め、タケ亜科は細分しない。同定・計数は、ガラスビーズ個数が400 以上になるまで行う。

(3)解析法

プラント・オパール分析結果の解析手順は、概ね次の通りである。

1)D.M.D.（渡辺・後藤,2007）による、試料 1g 中の各分類群毎のプラント・オパール個数の計算とプラント・オパールダイアグラムの作成

2)古植生・古気候の復元



プラント・オパール分析処理フローチャート